

なし管理情報 号外No1

令和4年5月24日
下野方梨組合
魚津市農業協同組合
富山県新川農林振興センター

今年、黒星病が近年で一番発生しています。
産地全体で次の3つのことに取り組み、これ以上の感染を防ぎましょう。

- 1 感染が活発になる梅雨入りまでに、徹底的に被害部位を摘み取りましょう。**
- 2 園地には、必ずスーパーの袋など摘み取った被害部位を入れるものを持って行き、園地外で処分しましょう。**
- 3 薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布間隔が短くなっても前倒しで実施し、散布ムラが生じないように丁寧に散布しましょう。**

< 摘み取る病斑 >

① 芽基部の病斑



② 果実の病斑



③ 葉の病斑



そのひと手間が今年の収穫、来年以降の安定生産につながります

(参考) 黒星病の発生状況

1 芽基部病斑の発生状況

- ・5月9日、昨年黒星病の発生を確認した10園地で芽基部病斑調査を行いました。
- ・その結果、2園地で発生を確認し、芽基部病斑率は、0.8%でした(時点)。
- ・芽基部病斑の発生が少なかった理由として、下野方地区は短果枝栽培が主体であり、芽基部病斑が発生する長果枝少なかったためと考えられます。

2 春型病斑の発生状況

- ・多くの生産者から黒星病がでていると情報をいただいたことから、5月19日、全園地で春型病斑調査を行いました。
- ・その結果、15園地中、9園地で発生を確認し、発病果そう率が5%を超える園地が6園地あり、うち2園地は20%を超えていました。
- ・被害は、果実の果梗や果そう葉で多く見られました。
- ・春型病斑が多発した要因として、①昨秋、秋型病斑が近年では一番多く確認され、産地全体の黒星病菌の密度が高まっていたところに、②落葉処理が未実施の園地があった又は精度が低かった、③今年、ゴールデンウィーク前半の天候不順で、4回目のデランと5回目のスコアの散布間隔が開いた、④5回目、6回目の防除が降雨後に散布した園地が多かった等が考えられます。

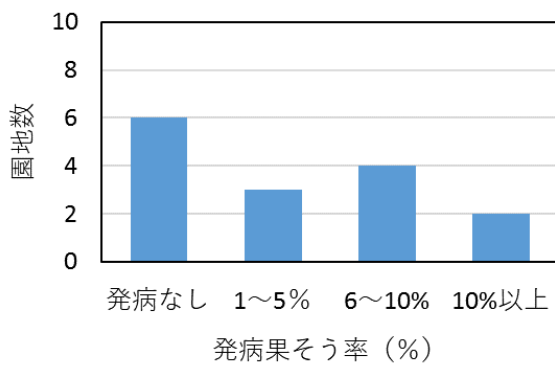


図4 園地の発生割合別発生状況

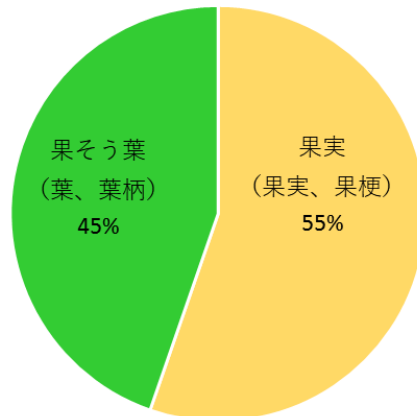


図5 発病部位別発生状況

3 これまでの気象と推定される黒星病の感染・発症サイクル

